

C
2024
SEPTEMBER
[第2018回]



美しく優雅な白鳥の舞い

ピョートル・イリイチ・ チャイコフスキー

Peter Ilich Tchaikovsky (1840-1893)

現代の私たちにとって、《白鳥の湖》はバレエの代名詞のような演目だ。オデットの美しい姿とともに、その音楽もひろく知られている。美しく優雅な旋律は、白鳥というモチーフにぴったりで、それを華麗な管弦楽法で彩るチャイコフスキーの才能には驚嘆するしかない。初演の失敗により、しばらくは演奏機会もなかった本作が、蘇^{そえん}演によってあらためて評価され、このように今日聴けることを^{ことば}寿ぎたい。

白鳥と黒鳥

バレエでは、白鳥オデットと黒鳥オディールは一人二役で踊ることが多い。純粋な白鳥オデットと、悪魔の娘である黒鳥オディール。《白鳥の湖》には、人間のもつ二面性に迫るような面白さもある。チャイコフスキーは、この二面性をも音楽で表現しながらドラマを支えている。



バレエ音楽の常識を覆し、
交響曲に匹敵する
美しい管弦楽法に彩られた《白鳥の湖》
イラストレーション: ©IKE